

# 櫻 花

桜、その花の形は美しく、色は純潔で、多くの人々に深く愛されている。

「桜の国」と言われている日本では、お花見は一年の中で、最も人々の心が安らぎ、浮き浮きとした気持ちにさせる。春を告げる足音とともに、桜は日本列島の暖かい南から寒い北の方へ向かって次々と咲いてゆく。この一連の日本特有な桜の咲く様子を「桜前線」と言う。それで多くの桜愛好家たちは、この機会を利用して「桜前線」を追いかけて北上し、各地の桜の景色を心ゆくまで堪能することが出来る。

桜の季節になると、人々は家族や同僚、友達と連れ立って、お酒やご馳走を持ち寄り、満開の桜の木の下に陣取り、子供たちの笑い声や心地よい音楽を聴きながら、お酒やご馳走を味わい、ピンクや白の桜の花の世界に心ゆくまで酔いしれる……

桜の花の咲く期間はとても短く、咲き始めてから散るまで 2 週間程しかない。桜の満開の時の美しさは人の心につまでも残るが、また散る時のあの花びらが風に舞う姿は、雪が舞うのに似て「花吹雪」と呼ばれる特別な風情がある。

ああ、日本！純潔で美しい桜、独特な桜の風情、毎年、それらのことを味わうために世界中の観光客が吸い寄せられる。

# 画龍点睛

昔、張僧繇という有名な画家がいた。ある日、皇帝が金陵（今の南京）の安楽寺の壁に四匹の龍の絵を描くように命じた。

これらの龍は生き生きとして、まるで本物のように描かれていた。しかし、奇妙なことに目玉は描かれていなかった。見に来た人たちは、これはどうしてですかと彼に尋ねた。彼は言った、「もし私が龍に目玉をつけたら龍はすぐに飛び去ってしまうよ。」

みんなはこの話を聞いて誰も信じなかった。そして何度も彼に龍の目玉をつけてくれるようお願いした。張僧繇は断り切れず、仕方なく彼らの言うとおりにした。

やはり、不思議なことが起こった。彼が丁度二匹目の龍の目玉を付けた時、空は突然強風が荒れ狂い、稲妻が光り雷が鳴り響いて、壁の目玉をつけられた大きな二匹の龍は、空へ舞い上がり飛び去って行った。見ていた人たちは皆、目を丸くして口をぽかんと開け呆気にとられた。

それ以来、張僧繇さんを益々尊敬するようになった。